

平成30年度 東山区地域保健推進協議会 摘録

日時：平成30年10月19日（金） 午後2時00分～午後3時30分

場所：東山区総合庁舎地下1階会議室1

出席者（敬称略）

<委員>

○委員	安住有史：東山医師会	今江道夫：東山区シニアクラブ連合会
	岡村泰介：東山歯科医師会	木村信夫：東山区社会福祉協議会
	中島路子：京都府看護協会東山・山科地区	松永洋子：東山区民生児童委員会
	松本明弘：三洋化成工業株式会社	水野 恵：京都女子大学健康管理センター
	村井清美：東山区地域女性連合会	村井 正：東山保健協議会連合会
	森 邦広：市政協力委員連絡協議会	安田茂夫：東山献血推進実行委員会
	山下和美：開晴小中学校	吉田 豊：東山消防署

<事務局>

○東山区役所保健福祉センター	山本一宏：保健福祉センター長	住吉睦生：子どもはぐくみ室長
	安田知子：健康長寿推進課長	北内祐美子：健康長寿推進担当課長
	石丸陽二：障害保健福祉課長	池上孝子：子どもはぐくみ課長
	多田哲子：障害難病支援係長	
○保健福祉局医療衛生センター	井上ひろみ：感染症対策担当課長	
	水野睦美：東山医療衛生コーナー担当係長	

1 開会あいさつ

山本センター長： 本日は大変お忙しいところをお集まりいただき、また、日頃から東山区政、とりわけ保健福祉行政、地域保健推進に格別の御支援、御協力を賜り、御礼申し上げます。

地域保健分野の各取組について御説明をし、御審議いただくことになるが、新センターの最重点取組の一つである、地域における健康づくり事業の充実に向けて、積極的な御意見を伺い、健康長寿のまち東山区の実現に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

2 委員紹介

○ 事務局より本日の出席人数について報告し、出席者が過半数を超えており、会議が成立していることを確認

3 東山区地域保健推進協議会について

（説明） 安田 健康長寿推進課長

4 議題

(1) 部会長、副部会長の選出について

○部会長に東山医師会会長の安住委員，副部会長に東山保健協議会連合会会長の村井委員を選任

(2) 京都市保健所運営協議会委員の選出について

○部会長の安住委員を選任

安住部会長が議長として議事を進行

(3) 平成30年度東山保健センターの取組について

事務局から資料説明

- (説明) I 「健康長寿のまち・京都」の実施に向けた取組の推進 北内健康長寿推進課担当課長
II 精神保健福祉施策の推進，難病患者への支援 石丸障害保健福祉課長
III 母子保健の推進 池上子どもはぐくみ課長
IV 医療衛生施策の推進 水野東山医療衛生コーナー担当係長
V 保健福祉センターが一体となった総合的な支援の実施 北内健康長寿推進課担当課長
VI 献血の促進 安田健康長寿推進課長

【意見等なし】

(4) 地域における健康づくり事業について

(説明) 北内健康長寿推進課担当課長

【質疑応答】

松永委員： 民生児童委員会においては，民生委員が保健センターの様々な取組に参加し，学んだことを地域へ持ち帰り普及活動を行っている。他の団体ではどのような活動をされているのか。

安田課長： 保健協議会では，保健委員対象のセミナーや施設見学会等を開催し，健康づくりや環境問題について勉強したことを各学区の総会等で周知するなどの普及活動を行っている。

5 意見交換

今江委員： 日頃シニアクラブの活動として，65歳以上を会員とし，健康長寿を目指すための様々な運動・行事を行っている。社交ダンスや，市と共催のウォーキングも月に一度開催している。その他クリケットやスカイクロス，運動以外でもコーラス等，健康に繋がればとの思いで教室を開催している。ほかに保健福祉センターの料理教室や歯の健診事業へも参加している。今後も様々な事業に積極的に参加したいと考えている。

北内担当課長： ある一定の年齢層（シニア層）は健康に留意されており，積極的に取り組んでいる。働く世代の生活習慣病の是正できない部分が，東山区の難しい部分である。

安住議長： 確かに働く世代の，生活習慣病への認識の低さが課題である。治療の継続が難しく，自覚症状のない病気をいかに認識してもらうかが大事であり，努力していきたいと考えている。

木村委員： こころのふれあいネットワークでは、地域の皆様と連携し、心の病をお持ちの方と一緒に様々な活動をしている。

また、福祉的支援が必要にもかかわらず、支援に繋がっていない方に関して、地域あんしん支援員が関係機関や地域との連携のもと、支援へ繋げる活動もしている。御近所にお困りの方がおられる場合は、社会福祉協議会へ案内いただくよう御協力をお願いしたい。

山本センター長： 昨年度参加した歯のひろばでは、非常に若い世代の方がたくさん参加されていた。どのようにすれば若い方々が参加されやすいのか、参考に御意見を伺いたい。

岡村委員： 一番に挙げられるのは、保育園児の絵画展をすることでお父さん、お母さんが来ていただけることである。ほかには、子どもを対象としたマジックショーやキッズコーナーにより、子どもが楽しめるブースを用意している。

山本センター長： 学校においても、地域との連携という点で、PTAの方々や地域の方々と取り組みをされておられると思うが、今後の方向性についてはどうか。新しい事業というのは難しいかもしれないが、既存の事業の中で、健康づくりをテーマとした話をしてほしい等の要望があれば我々も積極的に参加し、働く世代、子育て世代への周知の一つのルートを作れるのではないかと考えるが、いかがか。

山下委員： PTAの方を対象に家庭教育学級のようなものを年間に複数回行っている。その場所で他の行政区では健康診断のようなことを実施しているという話を聞いて興味深く思っている。

先ほどの事業説明の中でも性教育の話があったが、若い先生が多くなり、ゲストティーチャーとして来ていただく事がイメージできない先生も増えている。また、御協力いただきたいと考えている。

健康にかかわることに関しても、学校を通じてたくさんの発信がある。コミュニティスクールではなく、スクールコミュニティという形で学校が地域の中核にという思いを持っている。色々なことに利用していただければと思う。

山本センター長： 栗田学区では健康まちづくり会という事業を、地域のみなさんと一緒に十数年活動されていると聞いているが、その取組について紹介していただきたい。

安田委員： もともと、古川町商店街へ府立医大の先生や京大の先生が来られて、すこやかサロンというものを開催しており、そこからの声かけや包括からの提案もあり、自治連合会、社会福祉協議会、シニアクラブも参加して、学区でどのように健康づくりをしようかと2、3カ月に一回ほど会議を開いている。その中で、大きなイベントを半年ごとに開催することになり、5月にはウォーキング、11月には健康体操と健康診断を一緒にする取組を実施している。15回ほど開催している。

山本センター長： 企業としては従業員の健康づくりが第一だと思うが、企業活動の中では地域との連携も大切な分野だと思う。働く世代に関心を持ってもらえるような提案があれば伺いたい。

松本委員： 地域の方々との接点というのは少ないが、何かの取組の際には、協賛や寄付などの支援はさせていただいている。

山本センター長： 区民ふれあいひろばを毎年開催しているが、企業の方々にも協賛金等、大変御協力いただいている。このような機会にも健康づくりをPRしていきたいと考えている。

本日御参加いただいた方のそれぞれのお立場で、健康づくりの取り組みをスタートしていただければ、地域全体の盛り上がりとなり、働く世代、若い世代へ伝わっていくのではと期待している。

安住議長： 医師会と薬剤師会、地域包括で取り組んでいる事業がある。ひとつはお薬手帳の携帯率を上げる取組、そして介護・医療の情報の連携シートであるオレンジシートを挟み込むことで、お薬手帳を開けばその方の情報がすぐにわかる、という取組を今年度11月から開始していく。周知に御協力いただきたい。

村井委員： 先ほども話があった、こころのふれあいネットワークでは精神に障害のある方との交流を深める事業を年に数回開催している。皆様にも参加していただくようお願い申し上げます。

14日開催された医師会ウォーキングでは、昨年度から保健協議会連合会も共催となった。京都市の健康長寿の取組については、保健協議会連合会も保健センターや地域と連携して取り組むという方針となっており、保健協議会連合会も頑張っているところである。

6 閉会あいさつ

住吉室長： 昨年度、保健福祉センターとなり行政側も大きく体制が変わった。その利点を生かして、健康づくりのためのきっかけづくりと、継続してもらうための働きかけを進めていきたい。働く世代、子育て世代をどのように支援し、又は共同していくのか、これから保健福祉センターが工夫していかなければならないと考える。

そのためには、本日お集まりの各関係団体の皆様に御協力いただき、少しずつ健康づくりの芽を広げていきたいと考えている。

本日いただいた御意見を踏まえて、しっかりと健康づくりを進めていきたいと思っているので、今後も保健福祉センターをよろしくお願い申し上げます。